

屋久島生態系モニタリング

屋久島南部の植生垂直分布調査 (平成21年度調査)

**標高600mプロットの植生

本プロットの局所地形は複合的な急斜面で、南側境界は滝になっている。付近にはヤクタネゴヨウの大径木や幼木の群落が見られ、前回と大きな変化はない。平均斜面方位は南西向き。

【高木層】イヌノキ・イヌガシが多く、マテバシイ・クロバイ・サカキ・バリバリノキなどが混生。遷移の途中であることを示唆するエゴノキやヤクシマオナガカエデも生育。【亜高木層】クロバイ・タイムンタチバナ・イヌガシ・サクラツツジが多く、ヤブツバキ・ホソバタブや、数は少ないがハナガサノキ・ヤマグルマ・カクレミノ・シャリンバイ等も見られる。ヤクタネゴヨウの亜高木も見られる。【低木層】ヒサカキが最多、タイムンタチバナ・バリバリノキ・サクラツツジ・クロバイ・サザンカ等が混生。数は少ないがアデク・ハイノキ・シマイズセンリョウ・オオムラサキシキブ・ミヤマシキミも出現。【草本層】ウラジロ・タイムンタチバナ・サクラツツジ・ヒサカキ・ヒメイタビ・ヨゴレイタチシダ・ホソバコケシノブ・マメヅタ・カンツワブキ・ヤクカナワラビ・シシラン・コウヤコケシノブ・ヘラシダがほとんどの小プロットに出現。数は少ないがミヤマウズラ・ナンカクラン・ナチシダ・スジヒトツバなども出現。【群集および特徴的な出現樹種】イヌノキ・ヒサカキ群集と認められ、標徴種はアデク・オニクロキ・ヤクタネゴヨウ。【前回(平成16年度)との比較】階層ごとの優占種、樹高、植被率の変化は見られないが、前回亜高木層だったイヌノキ・クロバイ・エゴノキなどの一部が高木層に成長し、前回低木層だったタイムンタチバナ・サクラツツジ・サカキなどの一部が亜高木層へ、前回草本層だったサクラツツジの一部が低木層へと移行。一方、前回低木層だったイヌガシ・マテバシイ・ヒサカキ・バリバリノキ・サザンカなどの樹種の一部が、高木・亜高木層の成長に伴う被圧により枯死。下層植生の構成種が、ヤクシカの摂食により、ヤクシカ嗜好種から非嗜好種へと変化していた。

屋久島森林管理署と屋久島森林環境保全センターでは、例年、登山者が多くなる五月下旬～六月上旬のシヤクナゲの開花時期に合わせて、「シヤクナゲパトロール」を行っています。本年は五月二四日より実施し、高山植物の盗掘防止や登山マナーの呼びかけを行いました。ヤクシマシヤクナゲの開花は昨年に続き少ないようでしたが、休日前後は多くの登山者が屋久島の雄大な自然を満喫しに訪れていました。屋久島は、世界自然遺産として二〇年を迎え、利用者のマナーも向上していますが、湿原地内に足跡がみられるな

シヤクナゲパトロールの 実施、登山者への注意呼びかける

ど、心ない登山者も一部いるようです。今後も引き続き呼びかけを行うなど、登山マナーの向上に取り組むこととしています。



平石岩屋より永田岳を望む

著名ヤクスギの樹勢回復

日本樹木医学会鹿児島支部などの協力を得て、平成二二年度までに実施した屋久島の著名ヤクスギの一部について樹勢、周辺環境調査を行った結果、個体によっては樹勢の衰え等が見られたことから樹勢回復措置が必要なものがあ



樹勢回復資材の施用

二三年度は、優先度を考えて必要と思われるものから発根促進等樹勢回復措置を行うこととし、今回は、紀元杉、七本杉、奉行杉及び弥生杉について、樹勢回復措置や落下の危険がありそうな枝の処理などを行いました。無事一連の作業が終了したところで、また、これに加えて縄文杉の樹皮剥ぎ被害の修復措置の継続や高塚小屋周辺のヒメシヤラ林の根系で痛みが激しかった箇所の治療も実施したところ。今後も、屋久島森林環境保全センターや屋久島レクリエーションの森保護管理協議会では、レク森(自然休養林)等観光客等入り込

屋久島の植物



カギカズラ (アカネ科)

み者が多くて景観的にも早期の対応が望ましい著名スギや貴重な樹林の回復について、衰弱した個体を中心に、継続的な観察(モニタリング)を続け必要場合は適切な措置を実施していくこととしています。

関東地方南部から九州に分布する常緑つる性木本。葉腋にある湾曲した鉤で他の樹木などからみつつき、常緑樹林内や林縁を覆う。淡黄色の花が密集した直径二センチほどの球形の花序を、葉腋から一個ずつ出す。花期六～七月。



ヒメシヤラの根系回復作業

白谷雲水峡で ボランティア活動

四月二〇日、電力総連トーエネット労働組合(愛知県)二〇名と屋久島レク森協議会関係者3名により、白谷雲水峡で歩道清掃のボランティア活動が実施されました。当日は、あいにくの雨模様



参加者の皆さん

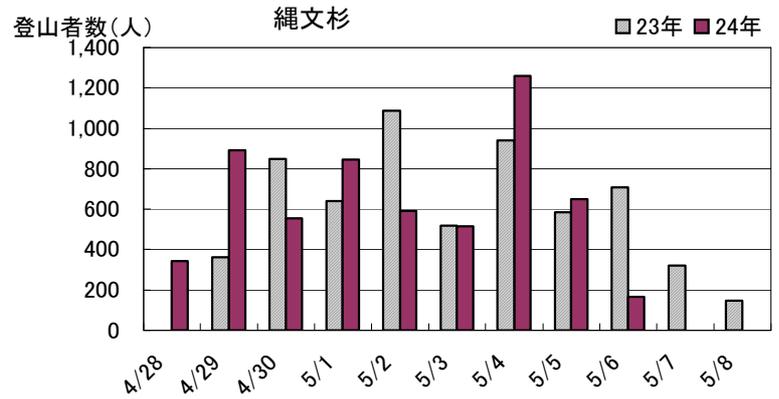


ブラシで磨く作業の様子

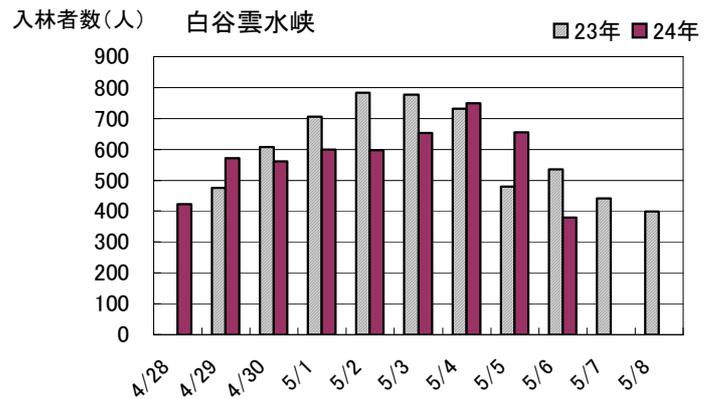
のなか、弥生杉コースの木道の踏み板を一枚ごとにブラシで磨く作業でしたが、参加者の熱心な活動により木目がよみがえり、無事終了しました。参加者の皆さんも木道本来の美しさを取り戻し、安全・快適に散策できるようになったことに満足していました。ご協力いただいた皆さんに感謝申し上げます。今後も、自然休養林のボランティア保全活動が広がって行くことに期待します。

【GW期間中における縄文杉登山者数と自然休養林入林者数】

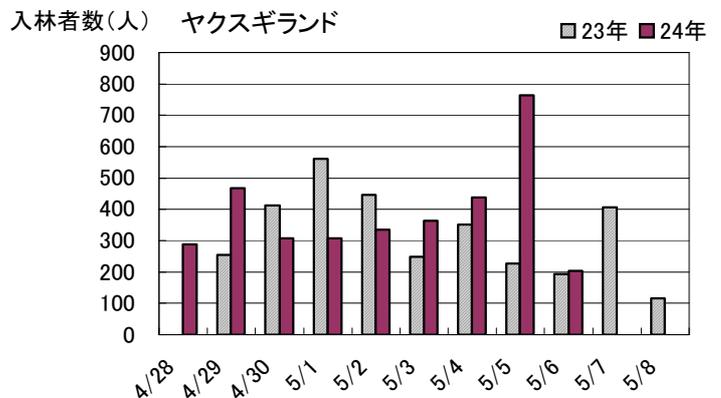
	縄文杉		
	23年	24年	前年比
4月28日	—	344	—
4月29日	361	892	+531
4月30日	849	555	-294
5月1日	639	844	+205
5月2日	1,087	590	-497
5月3日	519	514	-5
5月4日	939	1,259	+320
5月5日	586	649	+63
5月6日	708	165	-543
5月7日	322	—	—
5月8日	146	—	—
合計	6,156	5,812	
日平均	615.6	645.8	



	白谷雲水峡		
	23年	24年	前年比
4月28日	—	422	—
4月29日	475	572	+97
4月30日	608	561	-47
5月1日	706	600	-106
5月2日	783	598	-185
5月3日	777	653	-124
5月4日	732	750	+18
5月5日	479	656	+177
5月6日	536	379	-157
5月7日	440	—	—
5月8日	398	—	—
合計	5,934	5,191	
日平均	593.4	576.8	



	ヤクスギランド		
	23年	24年	前年比
4月28日	—	289	—
4月29日	255	467	+212
4月30日	413	308	-105
5月1日	561	307	-254
5月2日	446	335	-111
5月3日	248	363	+115
5月4日	352	438	+86
5月5日	226	763	+537
5月6日	194	203	+9
5月7日	407	—	—
5月8日	116	—	—
合計	3,218	3,473	
日平均	321.8	385.9	



*23年は10日間、24年は9日間の合計及び平均。

*■：休日

*縄文杉登山者数は屋久島自然保護官事務所の調査に、自然休養林入林者数は屋久島レクリエーションの森保護管理協議会の調査による。



《初夏の旅鳥〜アジサシの仲間〜》
 夏を感じ季節になると、春とは違った夏の旅鳥達がやってきます。人里近くでもホトトギスやアカシヨウビン、アオバズクなど特徴的な鳴き声が響き渡りますが、深い森に隠れてなかなか姿を見る機会が少ない鳥達です。
 一方で、来る場所さえ知っていれば比較的目にする事が容易なのがアジサシの仲間。屋久島では近年五月〜七月にかけて、クロハラアジサシやハジロクロハラアジサシが毎年観察されており、流れの緩やかな河川や湾港、開けた草地の上を一羽〜数羽で飛んでいることが多いです。飛び方は非常に軽やかで、その姿を一目見ればアジサシの仲間だと判断できます。水辺で見かけたら、水中へ急降下して小魚を捕らえる姿を観察できるかもしれません。

屋久島の野鳥